

食育 ～給食週間における取り組み

2月の小学部集会では、給食週間にあわせて「よくかんでたべよう」を題材に取り組みました。「よくかみかみおおかみくん」という紙芝居を見た後、よくかむことの効用を学び、最後にみんなで紫いもチップスを一口に20回かんで食べました。取り組みを計画する際、紫いもが配布されてすぐに食べてしまうのではないだろうか。20回数える前に飲み込んでしまうのではないかなどの心配がありました。しかし、みんながきちんと待って、一斉に食べることができ、しっかり20回かむことを意識して食べていました。

給食時には、「20回数えてかむんだあ」と一生懸命頑張る姿が見られ、取り組みの成果が表れたことは、大変嬉しく思いました。



給食週間の献立紹介



よくかむといいこと
(胃の調子がよくなる)



よくかむといいこと
(歯の汚れを落とす)

事務室からのお知らせ

❖ 就学奨励費書類の提出について ❖

就学奨励費書類についてお知らせします。

学用品費の支給の上限に達していない児童・生徒の保護者の方に、学用品・通学用品購入申告書を配付しています。

申告書の提出期限 : 3月10日(木) 厳守です。

支給日 : 4月末の予定

※振込口座の解約等をするかないよう、卒業生の保護者の方もご注意ください。



今年度最後の学用品・通学用品購入申告です。今年度の領収書・レシートは、来年度の申告には使用できませんので、提出方お願いいたします。

ご不明なことがありましたら、事務室(担当: 山口)までお問い合わせください。

自立活動 今年度の実践

個別指導計画の作成

今年度は全教員が自立活動の指導について考えた一年でした。自立活動は、「児童生徒が自立を目指し、学習上や生活上の困難さを改善・克服するために必要な力を養う」ときに役立つ指導です。この指導をより充実したものにするために、自立活動の個別指導計画を作成しました。個別指導計画には、「日常生活や学習で、この人はどんなことに困っているのか」「今、困っている状態を少し楽にするためには、どんな力が身につけばよいのか」などについて、考えたことがまとめてあります。児童生徒一人一人の困難さやつきたい力などについて話し合ったり、まとめたりすることによって、私たち教師は広い視野から、より深く一人一人の子どもたちについて理解しようとすることができました。今後は、教師の視点を個別指導計画を「作成すること」から「利用すること」に移行することで、さらに「子どもたち一人一人の困難さに寄り添う」指導ができるようになっていきたいと思います。

自立活動の視点から研究授業

私たちは、毎日子どもたちと一緒に国語、音楽、作業学習などの授業をしています。その授業を取り上げて、本年度は、訪問・小・中・高のすべての学部で、自立活動にかかわる研究授業をしました。研究授業では、上記の自立活動の指導のチャンスが、毎日行っている授業の「どこにあるのか」や、「どんな方法で自立活動の指導をすることが子どもにとって自然なのか」などのことを探りました。その結果、すべての授業に自立活動の指導のチャンスがあり、自立活動の指導がうまく機能すれば、一人一人の子どもの学習を、より取り組みやすく、楽しくすることができることが分かりました。これらの研究授業にかかわる活動を通じて、「子どもの困難さに寄り添うこと」や「寄り添うことから指導を始めること」の大切さに、改めて気づくことができました。



自立活動の研修

子どもたち一人一人の困難さに寄り添う自立活動の指導ができるように、以下の講師の先生をお招きし、自立活動に関わる研修を行いました。今後も研修を重ねたいと思います。

- ・「自立活動とは」：岡山県総合教育センター 片岡 一公 先生
- ・「自立活動の指導の実際」：筑波大学附属大塚特別支援学校 中村 晋 先生
- ・自立活動ミドルリーダー研修：岡山大学教育学部附属特別支援学校 高橋 章二 先生